

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894700026		
法人名	社会福祉法人香寿会		
事業所名	グループホームしいの木荘		
所在地	兵庫県美方郡香美町香住区森61-1		
自己評価作成日	平成26年11月7日	評価結果市町村受理日	平成27年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 ライフ・デザイン研究所
所在地	兵庫県神戸市長田区菟乃町2-2-14
訪問調査日	平成26年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然に囲まれ、四季の移ろいを感じながら、ご利用者一人ひとりの個性を大切に、有する能力に応じて自由にのびのびと楽しく生活して頂くように支援します。年間を通して季節ごとの行事や多種のクラブ活動を実施し、生きる喜びを感じながら生活を送って頂けるように努めています。特別養護老人ホームやケアハウス、デイサービスと併設し、職員研修会、各種行事また緊急時や健康管理面等での協力体制が確立されており、職員のスキルアップやご利用者の安全・安心な生活に繋がっています。職員は常よりご家族との連絡を密にすることで、馴染みの関係性が構築されています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①**本人本位の日常生活**・入居者ご本人の望む日常となるよう、ご本人との係わり(特に『会話』)を大切にしながら、個々人の生活のリズムに沿った自立支援に取り組んでいる。②**楽しみ事への支援(工夫)**・入居者にとってホームの暮らしが楽しいものとなるよう、様々な演出を行っている。法人のスケールメリットを活かした併設事業所との合同行事(流しそうめん、焼き芋大会、ハートフルフェスタ、七夕まつり、夏祭り等)、季節行事や地域見聞録、多彩なクラブ活動(仮装、料理、喫茶、書道、音楽、読書、回想、図工等)、近隣園児・児童等との交流等。③**家族・ボランティアの協力**・様々な行事(季節行事:端午の節句、七夕、敬老会、クリスマス、餅つき大会や外出:地域見聞録、買い物ツアー等)において家族・ボランティアの協力が多く、入居者も喜んでおられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念は毎日唱和し、事業所の運営方針は研修等を通じて理解するように努めている。その理念等を管理者と職員全員で共有して尊厳を守りながら利用者本位に過ごして頂いている。	「人権尊重」「本人本位」「生き甲斐のある生活」を法人理念の基軸とし、入居者個々人がその思いを達成できるように職員全員が同じ士気で日々の暮らしの支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の区長等により地区の祭り等の行事の案内を頂き出かけている。近くのスーパーマーケットやレストランへ買物ツアーや外食に出かけ地域の住民としての意識が保てるようにして頂いている。	季節行事での地域との双方向でのふれあい(祭り、ハートフルフェスタ等)、地域見聞録(ボランティア協力あり)、園児・児童との交流、近隣商店の活用等、地域に根ざした日常生活が展開されている。	地域の社会資源として、今後も、認知症ケアをはじめ地域密着型サービスの理解と浸透への積極的な取り組みに期待をします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で利用者の現状や事業実績を報告。意見交換の場を設けて率直な意見を頂くと共に、地域の中学生を福祉体験等で受け入れて認知症についても理解して頂けるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で意見交換の場を設けて広く意見を頂き、その内容を職員会議で検討して事業の推進に活かし、地域の秋祭り等に参加した。	会議では、事業所からの情報発信だけでなく、安全面・衛生面、地域行事、クラブ活動等、様々な場面についての意見交換を行い、事業所の活性化のヒントとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター主催の地域ケア会議に出席。また地域包括支援センターの職員が運営推進会議に出席している。介護認定調査での打ち合わせ等必要の都度、町担当者と連絡を取っている。	月例での地域ケア会議(地域包括支援センター主催、町職員も出席)に参加し、情報の共有、課題の検討、相談等を行っている。町の担当者とは、常に情報交換しながら運営に不具合が生じないよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や事例検討等で勉強会を開催して理解を深め職員相互で課題があれば話し合いながら身体拘束の防止に努めている。	法人内研修・事業所での事例検討学習等を通じ、身体的拘束等が生じない日常生活となるよう全職員が意識を持って取り組んでいる。「何気ない声掛け」にこそ留意が必要と感じている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止も身体拘束と同様に研修や事例検討等で理解を図り職員相互でミーティングをして虐待の防止に努めている。	研修・事例検討等により「不適切なケア」のレベルからの防止に努めている。職員のメンタルヘルス(孤立化の予防)にも留意し、コミュニケーション重視の日常を醸成している。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修により全職員の理解を図り概要は理解できたが、活用して支援できるまでには達していない。今後も研修等を通じて全職員の理解を深めるように努めたい。	成年後見制度等を活用している方は現在おられない。研修を通じ、職員は制度活用が認知症高齢者への支援の一方策であることを理解しており、権利擁護に関しての意識を高く持ち入居者の現況を把握している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約は入所契約書及び重要事項説明書等で説明を行い、不安や疑問点はその場で尋ねたり、後日その様なことがあった場合は電話等で十分な説明を行い納得して頂けるように努めている。	契約前での見学・アセスメント、質疑応答等によりホームでの生活に疑問・不安等のない状態にし、契約時には、契約関連書類を丁寧に説明し納得の上で入居して頂いている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、電話等で都度家族等の意見や要望及び運営推進会議での家族代表委員等の意見を職員会議で検討し事業所だけでなく法人内各事業所の協力を得ながら要望等に応えられるように努めている。	運営推進会議、来訪時、電話、意見箱等、様々な機会を設けて意見・要望を聴き取っている。頂いた意見や提案等へは遅滞なく検討し、必ずフィードバックしている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内全体の事業所が集う月1回の運営委員会に管理者が出席。事業所の現状報告と事業所間の情報の共有を図ると共に職員の意見等を検討する場としている。	業務面についての検討は、月例での職員会議で実施し、職員皆が意見・提案を行っている。夜勤者の業務内容の見直し、食堂の椅子の買換え等は職員よりの意見により実施された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日常、職員の意見に耳を傾け職場環境や労働条件の改善に努め職員各自がストレスを感じず向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人・事業所内研修及び外部研修への機会を設け職員個々並びに事業所全体の資質の向上に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月1回開催される「香住区担当地域ケア会議」に出席し、情報交換及び情報収集を行い、職員会議等で報告・検討してサービスの向上を図っている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始までに本人及び家族と共に事前面接を行い、本人の生活歴や要望、不安に思っている事項等を伺いながら一つひとつ説明して納得して頂けるように対応している。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接で要望や不安事項を伺い説明している。後日不明な事項ができた場合は電話連絡及び自宅訪問等行い理解して頂けるように努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接等で得た情報以外に疑問点等が出来た時は利用開始までに本人と家族に伺いアセスメント表を作成して必要なサービスの提供が出来るように努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を通して尊厳を持って対応し、生活リハビリを基本として自分で出来ることはして頂き自尊心を傷つけないように自己決定に基づき対応している。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が体調不良になった時等家族に電話連絡を行い、常に本人の様子を把握して頂き本人と家族の関係を大切に、受診等相談しながら対応している。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望により以前勤務していた所に外出支援して馴染みの人とコミュニケーションを図ったり、地元のお祭りに出かけたり、希望により家族と連絡が取れるように支援している。	家族との外出(食事・買い物・法事・墓参り)や外泊、友人・知人の訪問、出身地域の祭り見学、以前の就業地に出向いたり等、今までの暮らし感ができるだけ長く継続できるよう工夫し支援している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事等の軽作業やレクリエーションを通して、お互い出来ることをして頂き、出来ないところは利用者同士支え合いながら行う様に支援している。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の家族等に電話連絡して本人の近況を伺ったり、入院時は病棟に見舞いに行き必要により相談・援助に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活を通して、本人に希望を伺いながら全て自己決定に基づき、本人に寄り添うように支援している。	入居者との日々の係わり(会話、言動・表情等より)の中から、「今の思い・意向」をキャッチし、それが出来る限り実現できるように努めている。入手した情報は、申し送り・連絡ノート等で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接で本人や家族から得た生活歴等は概況表に記入。都度家族等の面会時に新たに得た情報等も記入して全職員が情報を共有して把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で都度本人の様子観察を行いながら、残存機能や心身の状態を把握して職員会議等で全職員が意見交換をしてより正確に把握できるように努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の様子を見て把握した本人の課題を全職員が検討、また家族等の要望や意見を伺い、より良く暮らすためのケアが現状に合ったものであるようにするための介護計画を作成している。	本人の思い・意向に家族の要望、職員・医療従事者等の意見も踏まえ、有用性の高い介護計画を作成している。入居者の現況確認は月例カンファレンス(全員参加)で実施し、モニタリングに活かしている。	一人ひとりの介護職員の観察力を高め、更なる本人本位の介護計画書の作成継続に期待をします。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活で実践したケアや本人の様子を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しケアの実践の統一や、より現状に即した介護計画が作成できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望により以前勤務していた所に外出支援して馴染みの人とコミュニケーションを図ったり、地元の秋祭りに出かけたり、希望により家族と連絡が取れるように支援している。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の伝統行事である祭りに、運営推進会議の中で地域代表の自治会長を通じて参加させて貰っている。行事等でボランティアの方をお願いして地域の児童等と交流して楽しむ機会を設けている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診及び急変時等協力医療機関の病院へ家族と連絡を取りながら、家族対応が出来ない時は事業所で受診対応して馴染の主治医に診察して貰い健康管理に努めている。	併設の介護老人福祉施設の医師が協力医となっている。定期受診・急変時における対応も可能となっている。入居前からのかかりつけ医を継続している方もおられ、家族と協同して受診支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時等必要に応じて併設している特養看護職員に相談し利用者の方が適切な処置及び受診等が出来るように連携している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人の情報提供書を病院側に提出して情報の提供に努めている。入院中は面会等により病院関係者及び家族と連携して情報を共有。退院時は病院側のケアカンファレンスに出席及び情報提供書により入院時の情報を得て退院後のケアに活用している。	入院中は、入居者の不安感の軽減と家族との連携のために面会に行くように努めている。病院とは早期退院を前提に連携し、退院時には予後に不具合が生じないよう情報を受けている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時は家族と話し合い、今後当事業所で出来るケアを説明し、家族、主治医、職員等で相談して家族の要望に最後まで応えられるように支援している。	重度化・終末期への対応は、ご本人にとって望ましいケア・「生」となるよう関係者(本人、家族、医療従事者、事業所等)で相談検討して取り組んでいる。併設の施設も受入れる体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の発生に直ぐ対応出来るように、施設内研修及び消防署指導によるAEDを用いた救命講習を開催し応急手当等の実践訓練を行うと共に緊急時対応マニュアルを作成して急変時に備えている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、併設の施設と合同で防災訓練を行っている。訓練では消防本部の指導・助言を受け、有事の際に利用者がスムーズに避難できるように全職員が取り組んでいる。運営推進会議等を通じて、地域住民の方々に協力して頂けるようお願いしている。	年2回、併設の事業所と合同で通報・消防・避難訓練(日中帯・夜間帯想定)を実施している(消防署立会いあり)。有事には、併設事業職員、近隣住民の協力が得られるようになっている。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員研修で基本的人権の尊重・プライバシーの保護・尊厳の保持等の研鑽を積んで職員同士が話し合い、日常生活の言葉かけや対応は利用者本位を心がけるように努めている。	入居者個々人の現況並びに自尊心・羞恥心に十分配慮しながら、今までの暮らしで培ってきた事柄(技能・習慣・趣味等)が維持・継続できるよう支援している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の動作等の様子観察を都度行うとともに、その時々言葉かけをして本人の要望や思いを聞かせて貰い自己決定により対応している。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々利用者の様子を見ながら、本人は何を望まれているのかを言葉かけ等で把握し、個々のペースで希望に添って暮らせるように努めている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服は利用者個々に、本人の好みで選んで頂き、アドバイスを求められた時は季節や気候等考慮して共に話し合いながら自己決定して頂き、身だしなみやおしゃれが何時までも出来るように支援している。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめるように一人ひとりに好みの物を伺い、希望献立を作り利用者と職員と一緒に作り、個々の出来る機能を発揮し食事の準備から片付けまでして貰い、充実感を持って楽しめるように支援している。	献立作り、食材購入、調理(包丁・皮むき等)、配膳・下膳、洗い物等を職員と会話を楽しみながら協同している。外食・出前、イベント食、手作りおやつも喜んでおられる。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事個々の食事状態を確認し、副食や汁・お茶等残されている時は言葉かけや小皿に盛り換えて押し付けしないで気分転換を図り全量摂取して貰い1日の栄養や水分の確保に努めている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前は嗽、毎食後は歯磨き及び義歯洗浄後嗽等を自力で行い出来ないところは職員が介助して口腔ケアを確実にを行い口腔内の清潔に努めている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入された排泄パターンを参考にして利用者個々の残存機能を把握し、自立支援を基本に、排泄時間等の習慣を考慮して言葉かけによりトイレ誘導して失敗を減少出来るように支援している。	入居者個々人の現況及び排泄パターンとそのサインを把握し、極カトイレでの排泄が行えるように支援している(ポータブルトイレの方もあり)。夜間帯も個々人にあつた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は野菜を中心に繊維質を多く摂取できるように工夫している。起床時等日中を通して水分補給の摂取に努めている。日中は歩行訓練等の運動を勧め、また排泄時腹部マッサージ等行い自然排便に努めている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	利用者個々の希望に添って本人のペースでゆったりと入浴して楽しんで頂き心身に爽快になれるように努めている。拒否された時は無理強いないように時間をおいて勧め、利用者本位の入浴に心がけている。	最低週2回の入浴を基本としている。ご本人の希望で毎日入浴しておられる方もおられる。入浴時はゆっくりゆったり入ってもらっている。季節湯(菖蒲湯、ゆず湯等)も楽しみにしておられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々利用者の希望及び様子観察しながら、個々の体調等考慮して都度の状況判断により本人に伺いながら自己決定により休養・休息して頂き安眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々に処方されている薬の目的・用法等把握し、個々の薬袋に保管。朝・昼・夕食後等に色分け氏名記入。服薬時は本人と氏名を確認して誤薬事故の防止に努めている。症状変化時は家族・医師と連携し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事等の軽作業や日々の催しを利用者個々の生活歴や残存機能を見極めながら、能力に合った作業等を無理強いはしないで自主的に自分の役割として意欲的に頂き、生きがいや楽しみとなるように支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者個々の希望により墓参り、馴染の場所等に出かけるように外出支援をしている。季節毎に花見・紅葉狩り、また地域のレストランに出かけて飲食等を楽しめるように取り組んでいる。気候が温暖で天気の良い日は施設周辺に散歩に出かけている。	日常での散歩や公園、買い物、草花や野菜への水遣り等、外気にふれる機会を意図的に設けている。季節の花見(桜・紅葉)、地域見聞録(家族・ボランティア協力)、馴染みの場所へのお出かけ等、少人数での外出も支援している。	今後も、利用者の思いに沿つた支援の継続を願います。



自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て買い物に出かけたり、職員の対応のみで買い物を時々したりしている。その時本人に希望の品物を選んで購入して頂き、現金を渡して本人に支払いをして頂くように支援している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者個々の希望により自宅等へ電話して取り次いだり、年賀状や手紙で自由に家族と連絡が出来るように支援している。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設外は山や田畑に囲まれ自然豊かで利用者も落ち着いて生活出来、四季折々の風景を感じる環境にある。施設内のホール天井は吹き抜けとなっていて季節毎の光・雨・雪等で四季を感じ、共用箇所は整理・整頓・清潔にして気持ち良く過ごせるように工夫をしている。	事業所近年の草花や玄関口での季節飾り、ホールの天窓(吹き抜け)からは、四季の移ろいを感じることができる(光の強弱、梅雨、雪等により)。リビングのソファや生け花・飾りつけは、憩いの時空間を演出している。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにテーブル・ソファ席を設け利用者の希望によりテーブルでパズル等をしたり・新聞・本等を読んで楽しまれ、またソファでテレビ観賞や馴染の方同士が会話等をして自由に過ごせるように配慮している。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人や家族と相談して家族の写真や今まで本人が使用してきた馴染のある物を配置し、本人が気分的に落ち着いて居心地良く過ごせるように努めている。	ゆったりとした居室には、使い慣れた馴染みの物(テレビ、筆筒、ソファ、仏壇、家族写真等)が置かれている。洗面台も設置され衛生的である。家具の設え等、ADLの変化へも配慮されている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の床はバリアフリーで居室等のドアは引戸で簡単に開閉できるようにしている。手摺も高さ・位置等考慮して設置し安全に安心して活用し自分で出来ることは自身で行い、自立して過ごせるように努めている。		